

(様式5)

# 調査報告書

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 11月 18日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム すずらんの家 ( 鹿児島県 )
-------------------	----------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u>
	氏名 <u>福留 昭</u>
事業所側対応者	職名 <u>ホーム長・管理者</u>
	氏名 <u>花田健一郎・中村千代</u> ヒアリングを行った職員数 3名

### ※記入方法

●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

### ※項目番号について

●外部評価項目は30項目です。

○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

### ※用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670104068号		
法人名	有限会社 健真		
事業所名	グループホームすずらんの家		
所在地	鹿児島市平川町1547番地 (電話) 099-284-2655		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月20日

## 【情報提供票より】 (平成20年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 4日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	8.6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	夕食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 ( 11月 1日現在 )

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 82.7歳	最低	73歳	最高	86歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳州会病院・朝隈歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、小さな花が寄りあって咲いているすずらんの花のように、入居者や職員が和になり寄り添って暮せる家でありたいとの思いで「すずらんの家」とした。職員は否定や制限をしない個々に応じた対応や入居者の笑顔がみられる支援に心がけ、入居者は生け花等の楽しみ事や草取り・食事の準備・洗濯など一連の過程の中で力量を発揮しており、入居者を中心とした生活の場として、職員と入居者が共に生活している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての自己評価であり、運営者や管理者・一部の職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの現況や行事の報告、地域交流や入居者が一人で外出してしまった時の対応についてなど意見が活発に出されており、有意義な会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や家族交流会・家族の訪問時などに意見を引き出せるよう努めている。入居者のケアに対する要望など、職員で検討し質の向上に活かす取り組みをしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	通所介護利用者との交流や踊りなどのボランティアの受け入れをしている。災害時や見守り等については、近隣者との協力関係ができている。地域の情報収集や行事への参加などはこれからである。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「まごころ」を持って迎えれば「愛情」「信頼」が生まれ「親切丁寧な介護」につながる意味をこめた、開設時からのホーム独自の理念である。地域密着型サービスとしての理念の見直し・検討はこれからである。	○	地域密着型サービスとしての理念を職員と検討しつくりあげていく取り組みが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に理念について説明し、理念の掲示などで日々理念の意識付けを図っている。職員会議などで、日々の支援について理念を基に研鑽し実践に向け取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	通所介護利用者との交流や踊りなどのボランティアの受け入れをしている。地域の情報収集や行事の参加などはこれからである。		地域の一員として地域活動に参加し地域住民と交流できる取り組みが期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ホーム長や管理者・一部の職員のみで取り組んでいる。	○	評価の一連の過程を全職員で検討し取り組むことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況や行事の報告、地域交流や見守りについてなど意見が活発にだされており有意義な会議となっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本庁や支所などの担当者と相談連携を図っている。包括支援センター職員との連携や介護相談員の受け入れなどもしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りでの定期的な報告や、近況や健康状態などは家族の訪問時や随時の電話や手紙で報告をしている。基本的に金銭の預かりはしていない。毎月の請求時にホームの立替分と領収書を送付し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族交流会・家族の訪問時などに意見を引き出せるよう努めている。入居者のケアに対する要望など出された意見を職員で検討し、質の向上に活かす取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすい環境づくりに努めている。入居者と職員は馴染みの関係ができています。職員の入れ替わりがある場合は、説明や紹介をきちんとし、職員同士連携を図りながら入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修や外部研修に参加する機会を確保している。外部研修後は報告書を提出し伝達研修を行い知識の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される研修会に積極的に参加し、困難事例など学びながら、同業者との相談連携を図り質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	原則として事前に本人の見学をお願いしている。面談を通し本人の把握に努め、本人や家族が安心して入居生活を送れるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者には料理やレクリエーションなど得意分野で力量を発揮してもらい、職員はいろいろなことを入居者から学び、支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から傾聴し思いや意向の把握に努め、また、ことばでの表出が困難な場合はしぐさや気配から意向を受け止めるよう支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族・職員等で話し合い、スタッフ会議や担当者会議などで検討し意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎にモニタリングや評価・見直しをしている。毎月のポイントを絞ったモニタリングもしている。心身の状況に応じ、随時介護計画の見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援・自宅帰省などの特別な外出支援や鍼やマッサージ等、本人・家族の意向や状況に応じ柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の納得のもとで、基本的に協力病院の医師がかかりつけ医となっている。また希望に応じて入居前からのかかりつけ医も継続している。家族・医療機関・職員は相談連携を図り適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状況により随時本人や家族・医療機関と今後について話し合っている。ホームの対応方針については、今後の課題となっている。	○	重度化や終末期にホームが対応できる支援を、職員や医療機関等と検討し、方針を共有する取り組みが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。職員同士の会話や書類なども、適切な個人情報の取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの意向や状況・ペースに合わせて柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理や味見・お茶だし・配膳・片付けなど、入居者が中心になりできる力を発揮している。入居者と職員は共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回を入浴日として、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しんでいる。状況に応じ柔軟な入浴支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や草取り・生け花・三味線・水墨画・散歩・外食・ドライブなど、各々の生活歴や趣味などを活かした役割や楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の意向・状況に応じ、散歩や庭の手入れ・ゴミだしなど日常的に戸外にでかける支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。近隣者の理解や協力が得られている。職員同士の声かけなどの連携を図り安全に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に昼夜を想定して避難訓練を実施している。近隣者に災害時の協力依頼をしている。備蓄として缶詰などの準備をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は把握し記録している。水分摂取量や毎月の体重も把握している。栄養バランスに留意し献立を作成している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい共用空間で、椅子の配置など工夫している。生け花や装飾品など季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族が相談して家具の配置など行っている。各居室には本やテレビ・ぬいぐるみ・三味線・水墨画・家族の写真などが持ち込まれており、それぞれが居心地よく過ごしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。